



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月31日

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
 コード番号 8242 URL <http://www.h2o-retailing.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 若林 純
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 森 忠嗣
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 06-6365-8120

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	420,762	9.1	11,107	44.2	12,013	39.8	6,874	44.8
25年3月期第3四半期	385,704	2.2	7,704	△8.0	8,590	△3.6	4,747	202.8

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 13,391百万円 (161.1%) 25年3月期第3四半期 5,128百万円 (97.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	35.41	35.25
25年3月期第3四半期	24.45	24.37

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	385,642	197,337	50.7
25年3月期	359,323	186,422	51.4

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 195,663百万円 25年3月期 184,744百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	6.25	—	6.25	12.50
26年3月期	—	6.25	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	6.25	12.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	570,000	8.5	17,200	61.2	17,900	57.9	9,300	50.0	47.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に該当しております。詳細は、添付資料P. 5「2. (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	206,740,777 株	25年3月期	206,740,777 株
26年3月期3Q	12,598,856 株	25年3月期	12,583,415 株
26年3月期3Q	194,152,642 株	25年3月期3Q	194,165,604 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
4. 補足情報	
株式会社阪急阪神百貨店の業績について	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

《連結業績（平成25年4月1日～平成25年12月31日）》

	金額（百万円）	前年同期比（%）
売上高	420,762	109.1
営業利益	11,107	144.2
経常利益	12,013	139.8
四半期純利益	6,874	144.8

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）における当社グループの業績は、百貨店事業では、阪急うめだ本店において、平成24年11月のグランドオープンから1年が経過し、各売場における顧客化が進み、順調に売上高を伸ばしました。

スーパーマーケット事業では、引き続き食品スーパーの新規出店や食品製造子会社における販路拡大により好調に推移しました。

以上の結果PM事業、その他事業を加えた連結売上高は、420,762百万円、前年同期比109.1%となりました。

各セグメントの概況は次のとおりです。

【百貨店事業】

《百貨店事業の業績（平成25年4月1日～平成25年12月31日）》

	金額（百万円）	前年同期比（%）
売上高	310,674	111.5
営業利益	8,861	171.1

阪急、阪神両本店が立地する大阪・梅田エリアは大型商業施設の新規出店や既存施設の増床などにより全国でも有数の大型商業施設の激戦区となっていますが、平成25年11月に開業一周年を迎えた阪急うめだ本店では、主力顧客層である40～50歳代に加えて、20歳代の若い世代のお客様も増加しており、婦人ファッションやリビング関連、フードなどを中心に順調に売上高を伸ばしました。さらに外国人観光客や外商顧客の増加もあり、宝飾品や高級腕時計など付加価値の高い高額品も好調に推移しました。以上の結果、阪神梅田本店と阪急メンズ大阪を合わせた梅田エリア3館の合計売上高は、198,785百万円、前年同期比118.6%となりました。

また、支店においても、博多阪急では平成24年8月より17ヶ月連続、阪急メンズ東京では平成25年5月から8ヶ月連続で前年実績を上回るなど、近年に開業した店舗を中心に順調に売上高を伸ばした結果、支店合計の売上高は、111,557百万円、前年同期比101.2%となりました。

以上の結果、百貨店事業の売上高は、310,674百万円、前年同期比111.5%、営業利益は、8,861百万円、前年同期比171.1%となりました。

【スーパーマーケット事業】

《スーパーマーケット事業の業績（平成25年4月1日～平成25年12月31日）》

	金額（百万円）	前年同期比（%）
売上高	75,225	106.9
営業利益	1,465	107.2

食品スーパー「阪急オアシス」を運営する株式会社阪食では、上質なライフスタイルを提案する都市型スーパーマーケットの積極的な店舗展開を進めており、当期も4店舗を新たに出店し、12月末現在で70店舗と順調に店舗網を拡大しています。商品面においては、優良な生産者と共同で取り組んだオリジナル商品の開発を進め、それらの素材を店内で加工し、“作りたて、出来たて”の商品をお客様とのコミュニケーションを重視した対面販売で提供するなど、様々な取り組みがお客様から高い支持を得ています。

また、食品製造子会社では、株式会社阪急ベーカリーが展開する100円パン事業が販路の拡大を押し進め、その他の食品製造子会社も順調に売上高を伸ばしました。

以上の結果、スーパーマーケット事業の売上高は、75,225百万円、前年同期比106.9%、営業利益は、1,465百万円、前年同期比107.2%となりました。

【PM（プロパティマネジメント）事業】

《PM（プロパティマネジメント）事業の業績（平成25年4月1日～平成25年12月31日）》

	金額（百万円）	前年同期比（%）
売上高	8,715	86.8
営業利益	1,039	81.5

PM事業の主要子会社である株式会社大井開発では、ビジネスホテル「アワーズイン阪急」が前年同時期に比べて客室稼働率が2.1ポイント上昇するなど、引き続き好調を維持しています。一方で、株式会社阪急商業開発では、平成24年8月末に運営していた商業施設が閉館するなど前年実績を下回りました。

以上の結果、PM事業の売上高は、8,715百万円、前年同期比86.8%、営業利益は、1,039百万円、前年同期比81.5%となりました。

【その他事業】

《その他事業の業績（平成25年4月1日～平成25年12月31日）》

	金額（百万円）	前年同期比（％）
売上高	26,147	98.3
営業利益	2,395	301.8

その他事業では、全体では減収となりましたが、持株会社であるエイチ・ツー・オー リテイリング株式会社において、子会社からの受取配当金増加などにより、その他事業全体では増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は385,642百万円となり、前連結会計年度末に比べ26,318百万円増加しました。これは、現金及び預金が11,496百万円、季節要因により受取手形及び売掛金が11,132百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

負債合計は188,304百万円となり、前連結会計年度末から15,403百万円増加しました。これは、季節要因により買掛金が12,000百万円増加したことなどによるものです。

また、純資産は197,337百万円と前連結会計年度末から10,915百万円増加しました。これは主として、利益剰余金が4,447百万円増加したほか、株式含み益の増加によりその他有価証券評価差額金が6,216百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は50.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の連結業績はほぼ想定通り推移しており、通期の予想については、平成25年10月29日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社グループは、従来、有形固定資産の減価償却方法として、主として定率法を採用しておりましたが、連結子会社の株式会社阪急阪神百貨店及び株式会社阪食において、第1四半期連結会計期間より、定額法に変更いたしました。

この変更は、百貨店事業において阪急うめだ本店がグランドオープンし、一連の重要な設備投資案件が完了したこと、また、スーパーマーケット事業において平成25年度以降、新規出店を拡大する計画であることを契機として、当該連結子会社が保有する有形固定資産の償却方法について、実態を踏まえて改めて見直しを図ったところ、新規出店・店舗改装後の売上高等の投資効果は安定的に発現すると見込まれるため、定額法を採用した方がこれら連結子会社の実態を、より適切に表すと判断したことによるものです。

今回の変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益はそれぞれ292百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,135	26,632
受取手形及び売掛金	22,960	34,092
有価証券	0	—
商品及び製品	14,863	18,168
仕掛品	270	828
原材料及び貯蔵品	945	901
繰延税金資産	6,116	3,183
未収入金	2,935	2,698
その他	2,258	2,786
貸倒引当金	△68	△83
流動資産合計	65,418	89,209
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	76,299	72,701
機械装置及び運搬具（純額）	2,126	2,271
土地	35,730	35,730
建設仮勘定	1,355	2,771
その他（純額）	7,799	6,659
有形固定資産合計	123,312	120,135
無形固定資産		
のれん	16,019	15,113
その他	8,739	7,619
無形固定資産合計	24,759	22,733
投資その他の資産		
投資有価証券	87,639	95,988
長期貸付金	2,635	2,673
差入保証金	47,609	47,394
繰延税金資産	6,736	6,487
その他	1,368	1,248
貸倒引当金	△154	△227
投資その他の資産合計	145,833	153,564
固定資産合計	293,905	296,432
資産合計	359,323	385,642

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	35,960	47,960
1年内償還予定の社債	34	17
短期借入金	5	5
1年内返済予定の長期借入金	580	35,506
未払法人税等	3,092	1,499
繰延税金負債	0	0
商品券	19,275	20,387
賞与引当金	3,661	2,306
資産除去債務	32	44
その他	28,056	30,582
流動負債合計	90,700	138,310
固定負債		
長期借入金	41,210	5,656
繰延税金負債	17,537	20,939
再評価に係る繰延税金負債	310	310
退職給付引当金	12,561	11,870
役員退職慰労引当金	160	169
商品券等回収引当金	1,874	1,978
長期未払金	2,476	3,095
長期預り保証金	5,671	5,615
資産除去債務	280	252
その他	118	106
固定負債合計	82,201	49,994
負債合計	172,901	188,304
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	48,260	48,263
利益剰余金	99,032	103,479
自己株式	△132	△150
株主資本合計	164,957	169,389
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,976	26,192
土地再評価差額金	81	81
為替換算調整勘定	△269	—
その他の包括利益累計額合計	19,787	26,274
新株予約権	531	529
少数株主持分	1,145	1,145
純資産合計	186,422	197,337
負債純資産合計	359,323	385,642

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	385,704	420,762
売上原価	280,646	307,034
売上総利益	105,057	113,728
販売費及び一般管理費	97,352	102,620
営業利益	7,704	11,107
営業外収益		
受取利息	52	47
受取配当金	823	976
諸債務整理益	1,164	1,041
その他	553	623
営業外収益合計	2,593	2,688
営業外費用		
支払利息	299	341
商品券等回収引当金繰入額	937	859
その他	470	582
営業外費用合計	1,707	1,782
経常利益	8,590	12,013
特別利益		
関係会社清算益	—	126
受取補償金	6,000	—
固定資産売却益	142	—
特別利益合計	6,142	126
特別損失		
固定資産除却損	1,497	189
減損損失	28	132
新店舗開業費用	2,684	—
店舗等閉鎖損失	1,505	—
特別損失合計	5,715	321
税金等調整前四半期純利益	9,017	11,818
法人税、住民税及び事業税	3,049	1,909
法人税等調整額	1,192	3,003
法人税等合計	4,242	4,913
少数株主損益調整前四半期純利益	4,775	6,905
少数株主利益	28	31
四半期純利益	4,747	6,874

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,775	6,905
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	336	6,216
為替換算調整勘定	16	269
その他の包括利益合計	353	6,486
四半期包括利益	5,128	13,391
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,099	13,360
少数株主に係る四半期包括利益	28	30

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	PM事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	278,712	70,353	10,044	26,593	385,704	—	385,704
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	238	3,474	2,957	12,578	19,249	△19,249	—
計	278,951	73,828	13,002	39,172	404,954	△19,249	385,704
セグメント利益	5,180	1,366	1,276	793	8,616	△911	7,704

(注) 1. セグメント利益の調整額△911百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

平成24年11月に阪急うめだ本店がグランドオープンしたこと等により、前連結会計年度末に比べ、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの資産の金額は、「百貨店事業」セグメントにおいて27,987百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

平成24年11月の阪急うめだ本店のグランドオープンにあわせ、スポーツ用品売場、ベビー・子供服売場が本店へ移設されるため、第2四半期連結会計期間において、阪急百貨店インクス館の閉店を決定しました。これに伴い、「百貨店事業」セグメントにおいて、減損損失を認識いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては763百万円であり、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	PM事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	310,674	75,225	8,715	26,147	420,762	—	420,762
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	351	3,560	2,098	15,552	21,562	△21,562	—
計	311,025	78,785	10,814	41,699	442,324	△21,562	420,762
セグメント利益	8,861	1,465	1,039	2,395	13,762	△2,654	11,107

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,654百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」に記載のとおり、当社グループは、従来、有形固定資産の減価償却方法として、主として定率法を採用しておりましたが、連結子会社の株式会社阪急阪神百貨店及び株式会社阪食において、第1四半期連結会計期間より、定額法に変更いたしました。

この変更により、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益は、「百貨店事業」で228百万円、「スーパーマーケット事業」で64百万円、それぞれ増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

4. 補足情報

株式会社阪急阪神百貨店の業績について

(1) 当第3四半期累計期間の業績

(単位:百万円)

	当第3四半期累計期間	
	金額	前年同期比
売上高	310,342	111.7%
売上総利益	77,144	112.3%
その他の営業収入	682	63.8%
営業総利益	77,827	111.6%
販売費及び一般管理費	68,349	106.7%
営業利益	9,477	166.5%

(2) 店別売上高

(単位:百万円)

	当第3四半期累計期間	
	金額	前年同期比
阪急本店(注)1	138,343	139.1%
千里阪急	13,041	99.8%
堺 北花田阪急	7,424	97.9%
川西阪急	13,113	97.3%
宝塚阪急	6,673	99.1%
西宮阪急	18,253	101.6%
三田阪急	1,027	98.3%
博多阪急	28,927	106.3%
阪急メンズ東京	9,093	108.6%
阪急百貨店 大井食品館	3,517	102.2%
都筑阪急(注)2	3,842	81.9%
阪神梅田本店	60,442	88.6%
あまがさき阪神	2,840	99.9%
阪神・にしのみや	3,372	99.9%
阪神・御影	427	99.1%
合計	310,342	111.7%

(注)1 阪急メンズ大阪を含む。

(注)2 平成24年10月3日 2~4階部分をショッピングセンターに業態変更し、これに伴う収益は(株)阪急商業開発にて計上。

(3) 商品別売上高

(単位:百万円)

	当第3四半期累計期間	
	金額	前年同期比
衣料品	97,352	107.8%
身の回り品	55,132	123.1%
家庭用品	10,712	115.6%
食料品	99,819	106.0%
食堂・喫茶	9,143	133.0%
雑貨	35,209	119.2%
サービス	1,720	98.3%
その他	1,251	104.7%
合計	310,342	111.7%